東邦大学医療センター佐倉病院
公開講座

循環器疾患を知って健康に生きる

公開講座の様子

循環器内科
臨床教授
野呂眞人

清水 一寛　助教

鈴木 淳　技師長

生物の体は環境に適合しながら生命を維持しています。環境には自然環境と人間が作った文明の環境がありますが、我々の身体は自律神経の働きでこれらの環境の変化に順応して、その環境に適合したシステムを体の中に取り入れようとしています。そのシステムの中心となるのが循環器系のシステムです。

先に、循環器内科　清水一寛助教より2011年の東日本大震災時が東邦大学医療センター佐倉病院に通院していた方々に及ぼした影響を、動脈硬化を調べるCAVIで検討した結果を報告しました。震源地から遠く離れた千葉でも、地震の影響は我々の自律神経に大きな影響を及ぼしておりました。結局、自覚として感じることがなくても、動脈硬化という循環器系に変化があったのです。

循環器とは何でしょう？　心臓と心臓から体に血液を送る動脈系、心臓に血液を戻す静脈系、その他リンパ系の事を総称して循環器系と呼びます。循環器疾患には虚血性心疾患、心不全、不整脈、動脈硬化等が挙げられますが、これらの疾患はお互いに共存し、より重篤な病態へと進行します。この中で多くの疾患は自覚症状が先行し、病気の存在を危険信号として知らせてくれます。しかし不整脈は特殊で、必ずしも自覚症状を伴わない場合があります。

次に、臨床生理機能検査部　鈴木淳技師長が循環器系検査に関する講演を行いました。「東邦大学医療センター佐倉病院生理機能検査部では、多くの循環器疾患の検査に携わっています。不整脈を中心に話をすすめていきたいと思います。まず心電図検査で何がわかるのか、不整脈とはどういう状態を指すのか、不整脈の原因、循環器疾患が考えられる動悸やめまい、胸痛などの自覚症状に対する検査の実例をあげながら循環器疾患と生理機能検査の関わりについて紹介します。今回の講座で取り上げる検査は、通常の心電図検査の他に、24時間の心電図を記録するホルター心電図、発作時の心電図を記録できるイベントレコーダー、運動負荷心電図のダブルマスター心電図、トレッドミル検査です。また画像診断として、心臓の形態や動きや弁の状態をみる心臓超音波検査についても紹介します。」を要旨として、循環器疾患の検査について講演を行いました。

不整脈とは何でしょうか？　手足などの筋肉は頭（脳）からの命令で筋肉に電気が伝導し収縮します。だから思うように体を動かすことが出来ます。心臓は筋肉（心筋）で出来ていますが、脳からの命令で動くのではなく心臓独自の電気伝導で動いています。ですから自分の意思で心臓の動きを変化させる事は出来ません。心臓は、右心房の上にある洞結節から規則的に電気信号が発生し、これが心房全体に伝導して心房が収縮、そしてこの伝導が心房と心室の間にある房室結節に伝導して、それから心室に伝導して心室が収縮します。この一連の電気伝導の異常が不整脈です。不整脈は自覚症状と一致しないため、気が付かないでいる事も少なくありません。身の回りにいる、多くの方々が不整脈で突然死、または加療されています。まずは健康診断を受ける、また少しでも自覚症状があれば医療機関を受診して診断を受ける事をお勧めします。

公開講座スケジュール

2016.11.17 現在

2017年　公開講座のお知らせ

入場無料・申込不要・200席

ご参加お待ち致しております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと考えております。
いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

	1 Jan.	2 Feb.	3 Mar.	3 Mar.	5 May
開催予定日	28日 土曜日	25日 土曜日	11日 土曜日	25日 土曜日	27日 土曜日
講演予定テーマ	あなたと家族を守る看護の視点 Part 1 ～災害を乗り越えるために 今できることを認定看護師と考える～	うつ病	家庭でも実践できる感染対策	地域で考えるケアと治療 歩行障害／パーキンソン病	あなたと家族を守る看護の視点 Part 2
担　当	看護部 救急看護・集中ケア・糖尿病看護認定看護師	メンタルヘルスクリニック・他 桂川 修一・他	感染対策室 長島 誠・他	神経内科・薬剤部・脳神経外科・リハビリテーション部・ソーシャルワーカー・看護部	看護部 認定看護師

※第34号（10月発行）でお知らせした3月の予定は、開催日が3月11日に変更となりましたのでご了承ください。

東邦大学医療センター佐倉病院
臨床病理症例検討会 開催予定
（場所：東棟7階・講堂）

第176回：1月26日（木）18時00分
第177回：2月20日（月）18時00分
第178回：3月23日（木）18時30分

地域の医療機関の皆様にもご参加頂けます。
（問い合わせ先：教育支援室）

東邦大学 佐倉だより

Vol. 35　2017,1,1

東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741
千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL 043-462-8811(代)
FAX 043-462-8820(代)
URL http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp

基本理念

医療の目的
質の高い医療を安全に提供する病院

病診（病）連携
地域に貢献する病院

教職員のあり方
人間愛を共有する病院

職場環境
楽しく明るくチャレンジする病院

生涯教育
良き医療人を育成する病院

患者の権利

質の高い公正な医療が受けられます
個人の尊厳が守られます
個人のプライバシーが保障されます
必要な医療情報の説明が受けられます
セカンドオピニオンが保障されています
医療行為について自己選択ができます

Topics News

1 Executive Message　2017年新年挨拶　病院長　長尾 建樹
2 アピールしたい診療と研究 #11
腎臓内科にズームアップ！　腎臓内科 准教授　大橋 靖
3 新任紹介　産業精神保健 職場復帰支援センター　メンタルヘルスクリニック 臨床教授　小山 文彦
3 感染対策　新型インフルエンザに備えて　感染対策室 室長　長島 誠
3 第6回 佐倉医療連携学術フォーラムのご案内
医療連携・患者支援センター長　吉田 友英
4 東邦大学医療センター佐倉病院公開講座
循環器疾患を知って健康に生きる　循環器内科 臨床教授　野呂 眞人
4 公開講座スケジュール　／　臨床病理症例検討会のご案内

Toho University
Sakura Medical Center

病院長
長尾建樹
Takeki Nagao

Executive Message

2017年新年挨拶

新年おめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中に賜りました東邦大学医療センター佐倉病院に対するご厚情、誠にありがとうございます。未だ大きな医療変革の渦の中にあって、すべての医療機関が非常に厳しい状況に立たされておりますが、教職員一同、「患者さんのために」という基本姿勢を貫き、常に地道に、そして確実に医療に取り組んで参りたいと存じますので本年も何卒よろしくお願いいたします。

また、昨年4月14日に発生し、甚大な被害を及ぼした熊本地震の被災者の方々には衷心よりお見舞い申し上げます。

当院ではこのような自然災害等、緊急災害時に地域の中核となって対処できるように一昨年より整備を進め、昨年4月に地域災害拠点病院としての指定を受けることができました。今後も災害現場へ緊急出動できる医療チーム（DMAT）のさらなる拡充と設備面での整備も継続して参ります。

診療の質を高めるため、昨年4月から不整脈アブレーション治療の専門家を招きペースメーカー装着を含めた、循環器内科診療の拡充に努めて参りました。また、5月には腎臓内科のスタッフが着任し急性期透析等の腎疾患に対する専門的治療も開始しております。さらに、10月には産業精神保健・職場復帰支援センター（デイケア）にも当該分野の専門家を招聘しメンタルヘルスクリニックの補強も行いました。

診療報酬改定が昨年4月にありましたが、大きな変動なく何とか現状維持を続けることができました。特に7対1入院基本料の算定病床を改定後も減らすことなく維持できたことは、看護部をはじめとして各部署が協力して、一丸となって診療の質を向上させるために努力を続けてきた賜物であります。

佐倉病院のフィールドは地域であることをいつでも念頭に置き、重点項目として診療連携に力を注いで参りました。その結果、昨年6月に患者紹介率並びに逆紹介率の基準を達成することができ、地域医療支援病院の指定を受けることができました。これは印旛市郡では2番目、千葉県では15番目の指定です。当院では佐倉市をはじめ9市町からなる印旛保健医療圏の中核となる地域医療支援病院として、地域との密接な連携を図るため医療連携・患者支援センターが中心となり、病院と地域がともに情報を共有して診療の継続ができる環境を整備して参りました。これからも患者さんが最善の医療を適切な場所で適切な時期に受けることができるよう連携を強化して地域で医療が完結できる体制づくりに努めて参ります。医療連携・患者支援センターでは、これまで以上にスムーズな紹介や逆紹介を推進しご紹介に関するお手間を軽減するだけでなく、広く当院に対するご要望、ご叱責に対して迅速に対応できる体制を整えておりますので、遠慮なくご連絡いただき積極的にご活用ください。

がん診療においては、千葉県がん診療連携協力病院として緩和ケア関連部署の増員や化学療法室の拡充を行い、放射線治療部門の稼働も順調に推移しており、総合的ながん診療体制を継続的にかつ安定して提供しております。

東邦大学医療センター佐倉病院教職員は、患者さんに「かかって本当によかった」と思っていただける病院、「働いて本当によかった」と思える病院を目指して常に努力を惜しまず今年も邁進を続けます。関係各位におかれましては、更なるご支援・ご理解を是非ともお願い申し上げる次第です。最後になりましたが、この新しい年が皆様にとりまして更に良い年になるよう心から祈念致しまして新年の挨拶とさせていただきます。

アピールしたい 診療と研究

#11 腎臓内科にズームアップ！

准教授　大橋 靖

「腎臓と健康」

腎臓病はたんぱく尿や血尿から始まり、時に急性の経過を辿り、時に慢性の経過を辿りながら、治る腎臓病もありますが、多くは末期腎不全に至り、時に透析療法・腎移植を必要とする疾患群です。腎臓に特有の病気もあれば、生活習慣病のような Common Disease にも関連し、希少疾患にも関連します。腎臓の働きが失われると、体内の環境を健全に保持することが困難になり、その働きを代用するために腎代替療法が必要になります。当診療科では、「腎臓病の重症化を防ぐこと」・「腎臓病から健康を守ること」を目標に「腎臓と健康」をテーマとして、診療を提供しています。

慢性腎臓病（CKD）外来診療プログラム (Clinical Practice Program for patients with CKD; CLIPP-CKD)

腎臓病の診療には 1)「腎炎・ネフローゼ症候群」の領域、2)「慢性腎臓病（CKD）の重症化予防」の領域、3)「末期腎不全の健康管理」の領域があります。私たちは地域の先生方と連携し、腎臓病に対する治療のプランを提供し、腎臓病診療に取り組んでいきたいと考えております。腎炎・ネフローゼ症候群は「たんぱく尿」や「血尿」などの尿検査異常が病気の発見のチャンスです。腎生検による病理組織学的検査を行い、ステロイド・免疫抑制薬療法を行います。慢性腎臓病（CKD）の重症化予防は「腎臓病のステージ」・「肥満・栄養障害」・「心血管系合併症」を評価し、腎保護療法のプランを作成します。末期腎不全に対する健康管理は残された腎機能の保持を目指しながら、腎不全による健康被害を是正していきます。

現在、「腎と健康サポートチーム」・「慢性腎臓病（CKD）と健康を学ぶための短期入院診療プログラム (Hospital Practice Program for patients with CKD; HOPP-CKD)」を整備中です。

肥満と栄養障害に応じた腎臓病食事指導

当診療科では肥満と栄養障害を評価し、腎臓病食のたんぱく質の制限を調整します。栄養障害のあるかたには栄養状態の改善を優先し、肥満のあるかたには減量を優先します。適正な栄養状態を保持しているかたには腎保護のためにしっかり低たんぱく食を指導します。

腎臓内科チーム（左から山﨑助教・鮫田管理栄養士・金居管理栄養士・大橋准教授）

腎代替療法（透析・移植）による健康支援

末期腎不全により健康維持が困難になる場合、腎代替療法（透析・移植）により健康を回復させる必要があります。また、慢性維持血液透析を行っているかたの入院治療をサポートいたします。今後、透析室を新設し、地域のニーズに応えてまいります（現在透析ベッド２床で受け入れ体制が十分ではありません。ご迷惑をおかけしておりますが、ご理解のほどよろしくお願いします）。

研究

腎臓は体から老廃物を排泄し、体液・電解質、酸塩基平衡を調節し、骨・ミネラル代謝や赤血球の分化に関わっています。私たちは「腎臓と健康」をテーマに体組成・栄養学を中心に研究に取り組んでいます。人の体は60％が水分でできており、細胞内液と細胞外液の比は2：1 だと学びましたが、私たちのグループは細胞内外の体液バランスが崩れることと健康には大きな関わりがあることを報告しました（J Nutr Health Aging. 2015）。腎臓病に対する治療はまだまだ不完全です。臨床から生まれたクエスチョンを大切にし、その疑問に挑戦していきます。

新任紹介

産業精神保健
職場復帰支援センター
メンタルヘルスクリニック
臨床教授
小山文彦

2016 年 10 月より東邦大学佐倉病院 産業精神保健 職場復帰支援センター長・教授を拝命し、着任致しました。当院では、大学医療機関・総合病院としては全国に先駆け、うつ病患者さんへのリワーク・プログラムを導入しています。前教授 黒木宣夫先生のお力により 2007 年 10 月に開設され、臨床心理士や作業療法士等の多職種チームによるリワークの取組みを開始し、他の事業場外資源と連携しながら、地域におけるうつ病リワークの中核的役割を担っております。利用者の皆様には、安心してご活用いただき、医療関係者の皆様方には、ご指導、ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

第6回 佐倉医療連携学術フォーラムのご案内

医療連携・患者支援センター長　吉田友英

東邦大学医療センター佐倉病院は「第 6 回 佐倉医療連携学術フォーラム」を開催させていただきます。日頃よりお世話になっている地域の先生方・医療関係者の皆様をお招きして、講演会を行うほか感謝の意を表すとともに、より一層の親睦を深める場として懇親会を予定しております。当院からは医師・看護師をはじめ、様々な職種のスタッフが参加し、「顔の見える医療連携」の更なる進展の場に致したく存じます。時節柄ご多用のこととは存じますが、何卒ご臨席賜わりますよう心よりお願い申し上げます。

【日 時】 2017 年 2 月 18 日（土曜日）17 時 00 分～

【場 所】 ウィシュトンホテル・ユーカリ 4 階ジャルダン

【問い合わせ先】
東邦大学医療センター佐倉病院
医療連携・患者支援センター　TEL：043-462-8770

プログラム

■第１部　講演会　17 時 00 分～

『不整脈治療の進歩』
東邦大学医療センター佐倉病院 循環器内科　臨床教授　野呂 眞人

『認知症疾患医療センターとしての役割』
東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック　准教授　桂川 修一

『地域における初期集中支援とさくらパス』
佐倉市役所 福祉部 高齢者福祉課 包括ケア推進班　主　査　緑川 由佳

『急性期病院における認知症患者の退院支援』
東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携・患者支援センター
退院支援部門 看護相談　看護師長　林　弥生

『急性期医療と地域をつなぐ地域包括支援センターの役割』
佐倉市志津北部地域包括支援センター　看護師　梅崎 由貴

■第２部　懇親会　19 時 10 分～

感染対策

新型インフルエンザに備えて

感染対策室　室長　長島 誠

2016 年10 月18日に印旛健康福祉センター（印旛保健所）と合同で、新型インフルエンザ患者搬送訓練を実施しました。実際に新型インフルエンザ等が発生した際には、大変混乱することが予測されます。

今回の訓練は、海外で新型インフルエンザの発生が確認されており、発生国からの帰国者が体調を崩し受診に至る場面を想定しました。患者は印旛保健所の帰国者・接触者相談センターに相談後、当院に設置された帰国者・接触者外来を受診することになります。診察・問診を実施し、新型インフルエンザの要観察例と診断、検査用検体を採取した後に、患者を感染症指定医療機関に搬送するという流れで訓練を実施しました。

多くの病院スタッフが訓練に参加し、極めて有意義なものとなりました。実際に訓練を実施することによって、現在作成している感染対策マニュアルの不備や課題等も抽出することができました。さまざまな感染症の発生時にスムーズに対応できるよう、病院の受け入れ体制の整備を進めていこうと考えています。